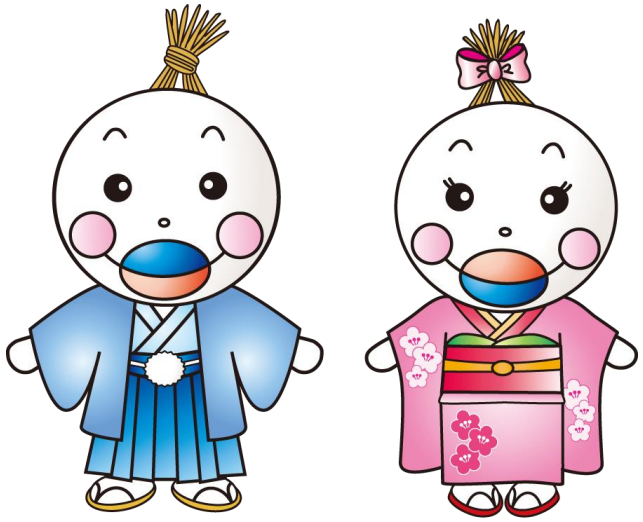
みんなでまちづくり
の推進について



添田町マスコットキャラクター　ひこちゃん・ゆずちゃん

添田町総合企画財政課

○ 添田町の紹介

- 面　　積　：　１３２．２０ｋｍ（県内で11番目に広い）
- 人　　口　：　９，４０７人（令和２年９月末時点住基人口）
- 高齢化率　：　４３．１５％
- 特 産 品　：　英彦山がらがら、陶面、柚子こしょう、めんべい
- 　　トルコギキョウ、しいたけ、ヤマメ　　など
- 学 校 区　：　小学校５校区、中学校１校区

○ 添田町の四季

○ 添田町のみどころ

- **観　る（SIGHT）**：四季折々の変化をみせる自然、歴史の趣をそのままに残した史跡、西国一の修験道の霊山であり、日本二百名山の一つである英彦山など、あなただけのお気に入りスポットを見つけてください。
- **遊　ぶ（PLAY）**：約800年の歴史を誇る土鈴「英彦山がらがら」の絵付け体験や、ヤマメ釣り体験など、添田ならではの体験をお楽しみください。
- **泊まる（STAY）**：英彦山の中腹にある「ひこさんホテル和」をはじめ、近年注目を集めるキャンプ・グランピング施設など、添田町を満喫していただける宿泊施設もあります。
- **買　う（SHOP）**：道の駅「歓遊舎ひこさん」で新鮮な野菜、地元の特産品などの販売だけでなく、地元の食材を使用したレストランなど、添田町の自然の恵みをご堪能ください。

詳しくは以下のサイトをチェックしてね

- 添田町ホームページ
  https://www.town.soeda.fukuoka.jp/
- 添田町観光ナビ
  https://www.soeda-navi.com/

○ 添田町の取組ってどんなこと？

- **第５次総合計画の計画期間が令和２年度末までとなっていたことから、令和元年度から総合計画の策定に着手。**
- **総合計画の策定にあたっては、住民参加型の取組を進めるため、ワークショップ形式による会議体「ソエダみらい会議（仮称）※」を立ち上げ、総合計画策定までに全10回の会議を開催。**

第１回：キックオフミーティング・総合計画ってなに？

第２回：10年後のありたい姿を語る

第３回：現状や今後の取組アイデアについて

第４回：取組アイデアの具体化に向けて（だれが・何を・どのように）

第５回：これまでの振り返り、アンケート調査結果等説明

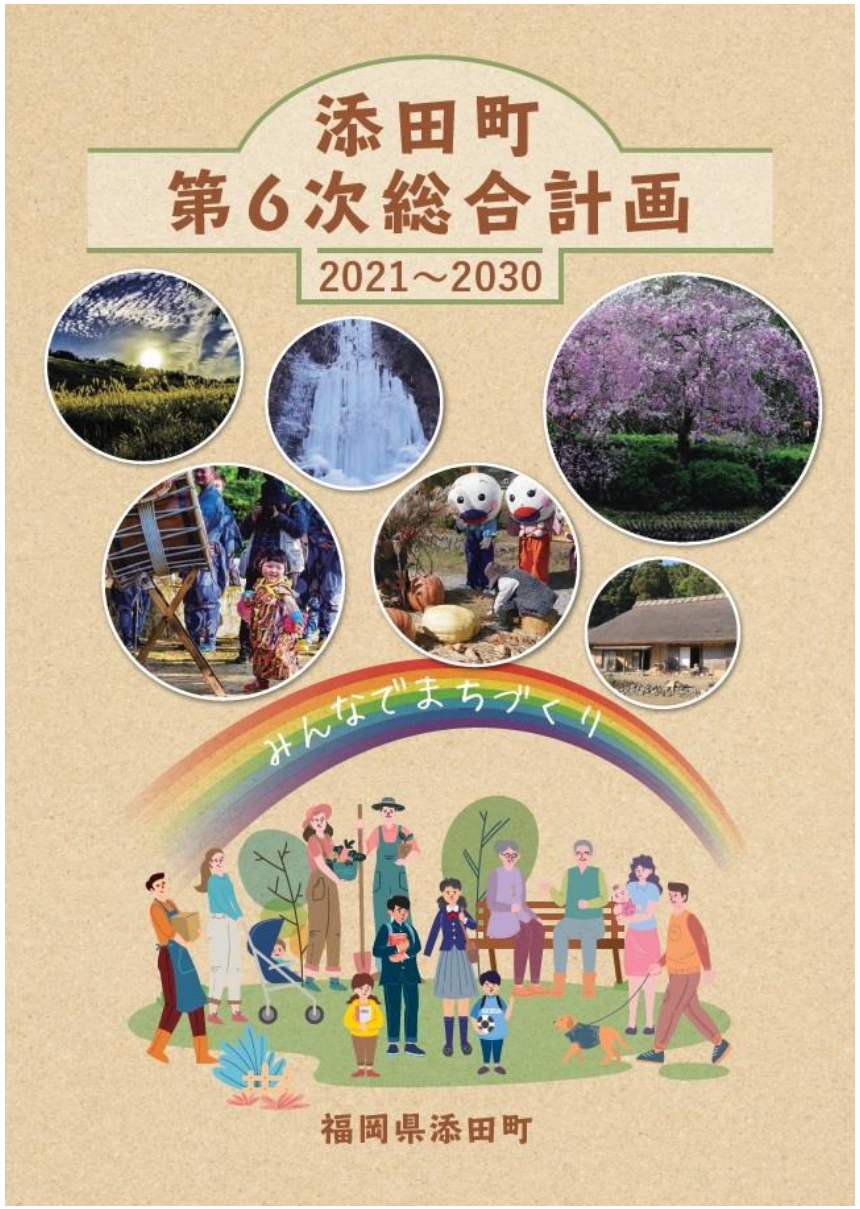
第６回：「自分事」の取組を検討する(自分ができること・したいこと)

第７回：企画書づくり

第８回：企画内容の磨き上げ（年内実施に向け実行委員会立ち上げ）

第９回：実行委員会からの検討・進捗状況報告

第10回：事業実施報告・最終まとめ

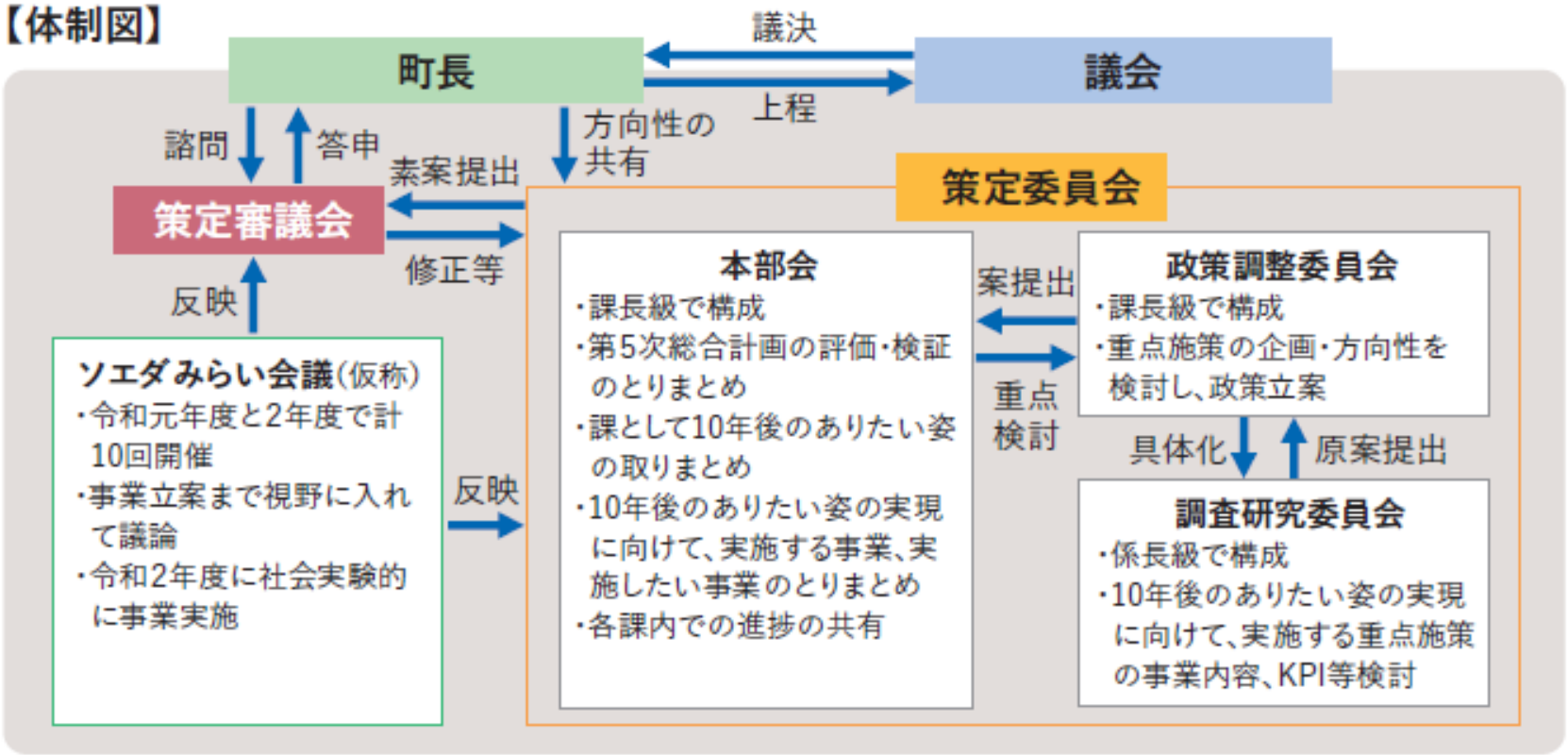


※参加者との意見交換の中で、１回の会議に100人集まるまで（仮称）とすることとしたが、全10回の中で最大参加者数は20名であったため、（仮称）のママ。

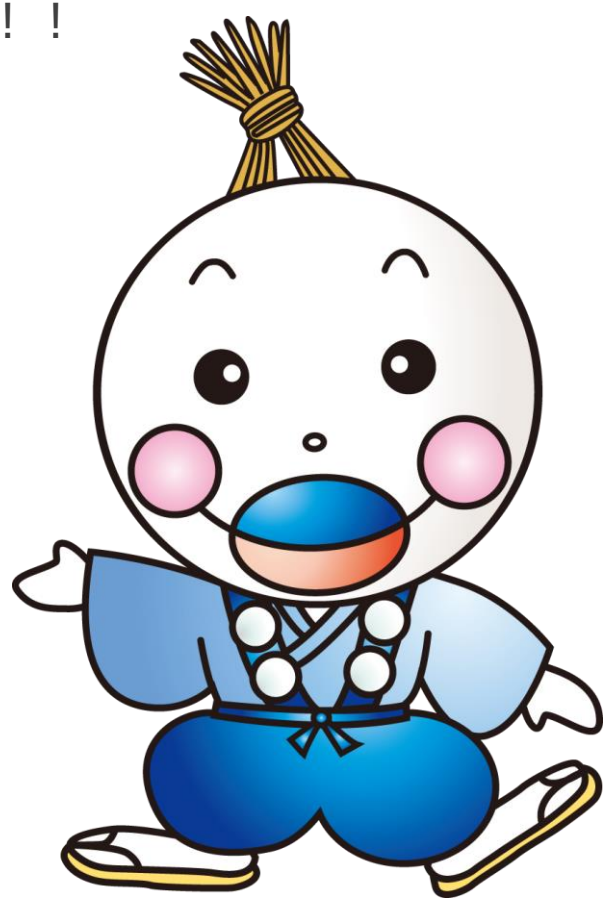
○ なぜ住民参加型のワークショップを開催したの？

- **計画策定に係る共通のキーワードは『「他人事」から「自分事」へ』**
  - 住民側では「脱依存」、地域活性化は行政任せではなく、自分（みんな）で出来ることを考える！！
  - 行政内部では「脱縦割り」、住民を巻き込むことで本気で取り組むしかない！！

【体制図】

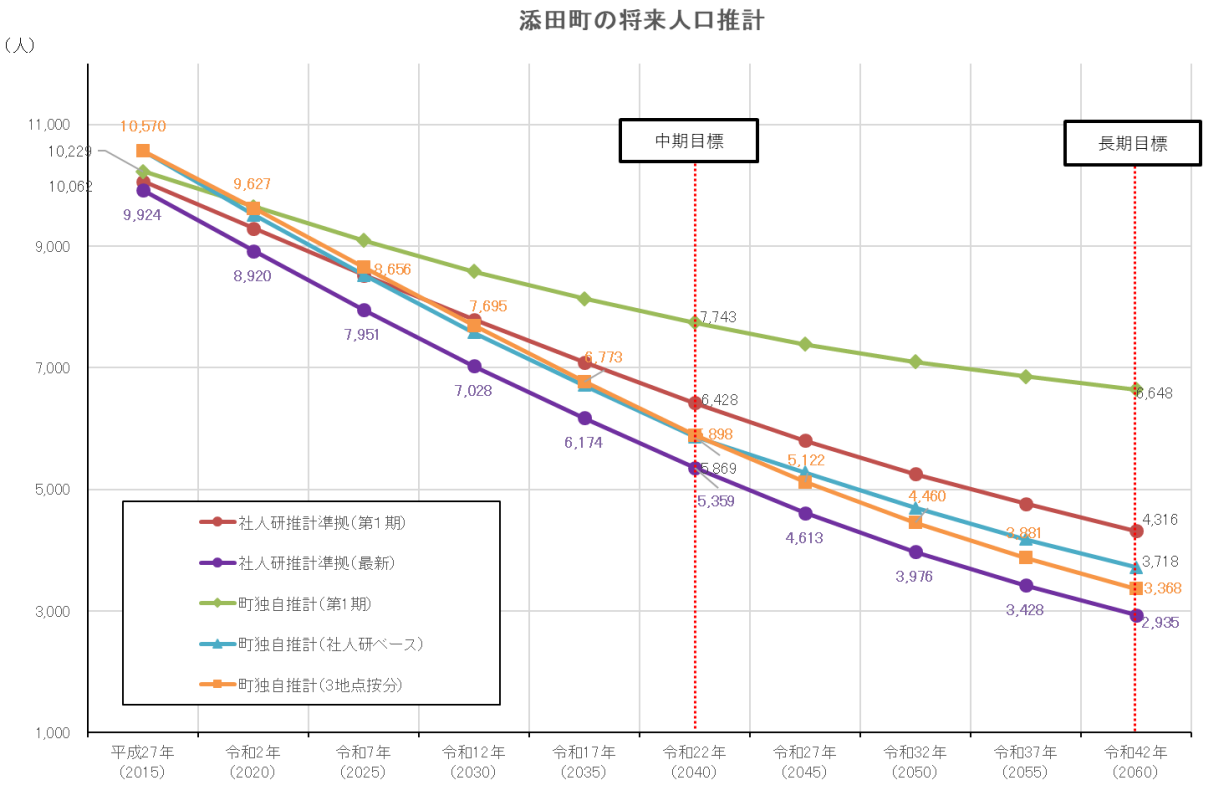


※添田町第６次総合計画から引用



○ なぜ住民参加型のワークショップを開催したの？

- **少子高齢化・人口減少が急速に進んでいる。**
  - 町独自の推計では、10年後に人口が約7,700人、20年後には約5,900人となる。
  - 当面、高齢化率は45%前後で推移するが、その後、少子化の影響を受け30年後には50%近くまで進む予想。



■添田町の総人口の推移と将来推計

年（西暦）		2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
年（和暦）		平成27年（2015）	令和2年（2020）	令和7年（2025）	令和12年（2030）	令和17年（2035）	令和22年（2040）	令和27年（2045）	令和32年（2050）	令和37年（2055）	令和42年（2060）
社人研推計準拠（第1期）	（人）	10,062	9,294	8,525	7,793	7,096	6,428	5,805	5,256	4,768	4,316
社人研推計準拠（最新）	（人）	9,924	8,920	7,951	7,028	6,174	5,359	4,613	3,976	3,428	2,935
町独自推計（第1期）	（人）	10,229	9,651	9,094	8,589	8,140	7,743	7,387	7,097	6,858	6,648
町独自推計（社人研ベース）	（人）	10,570	9,513	8,523	7,583	6,712	5,869	5,286	4,701	4,181	3,718
町独自推計（3地点按分）	（人）	10,570	9,627	8,656	7,695	6,773	5,898	5,122	4,460	3,881	3,368

※添田町第６次総合計画から引用

○高齢化率の高い県内市町村（令和３年４月１日現在）

順位	1	2	3	4	5
市町村名	東峰村	添田町	小竹町	香春町	みやこ町
高齢化率	44.9%	43.7%	41.8%	41.4%	40.9%

※福岡県ホームページから引用

○ なぜ住民参加型のワークショップを開催したの？

▶ **少子高齢化・人口減少が急速に進んでいる。**

- 添田町の人口は石炭産業の衰退を大きな要因として、昭和30年をピークに減少。
- 平成10年以降、毎年平均184人の人口減少が続いており、平成27年以降では毎年平均270人の減少となっている。
- その要因として、10代後半～30代の転出超過（社会減）が挙げられ、進学や就職、婚姻に伴うものと考えられる。
- また、若年層の減少による出生数の減少、高齢化による死亡数の増加など、平成27年以降、毎年平均して約150名の自然減となっている。

○添田町の人口の推移

区　分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総　数	25,170	16,006	△36.4	14,632	△8.6	11,810	△19.3	9,924	△16.0
0歳～14歳	8,270	3,109	△62.4	2,502	△19.5	1,365	△45.4	1,060	△22.3
15歳～64歳	15,284	10,712	△29.9	9,071	△15.3	6,632	△26.9	5,001	△24.6
うち15歳～29歳(a)	5,837	3,261	△44.1	2,055	△37.0	1,553	△24.4	983	△36.7
65歳以上(b)	1,616	2,185	35.2	3,059	40.0	3,813	24.6	3,863	1.3
(a)/総数 若年者比率	23.3	20.4	－	14.0	－	13.1	－	9.9	－
(b)/総数 高齢者比率	6.4	13.7	－	20.9	－	32.3	－	38.9	－

※添田町過疎地域持続的発展計画から引用

人口減少や少子高齢化を急激に解消するような特効薬はなく、添田町に「住みたい・住み続けたい」と思ってもらうことが大切。

○ なぜ住民参加型のワークショップを開催したの？

▶ **今後さらに厳しい財政運営が予想される。**

- 現段階の財政状況は健全な状態と言えるが、今後５年程度は町営住宅・学校の建替えなど大型事業を予定しており、地方債借入れによる地方債残高の増加、公債費の増加が見込まれる。
- 歳入面では自主財源が３割にも満たず、令和元年度決算における財政力指数は0.23%、経常収支比率は99.2%と財源に余裕がなく、硬直化した状況であると言える。
- 今後、人口減少による町税や地方交付税の減少、高齢化に伴う社会保障費の増加が見込まれる。

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
添田町（令和元年度）	△9.06	△21.40	4.1	△72.0
早期健全化基準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※添田町第６次総合計画から引用

○ なぜ住民参加型のワークショップを開催したの？

▶ **今後さらに厳しい財政運営が予想される。**

- 令和元年度末時点の財政調整基金残高は約32.8億円だが、大型事業の実施に伴い基金残高が大幅に減少する見込み。
- 昭和56年以前に建築された公共施設（保有面積ベース）は約６割となっており、老朽化が進み公共施設の維持管理経費は今後40年間で400億円以上が見込まれる。
- 公共施設の廃止や財政緊縮に伴い、行政サービスの縮小は避けられない。

↓

- 従来の縦割り行政体質・行政依存型からの脱却が必要
- 厳しい状況下において、将来像実現に向けて共に行動する仲間（住民）の存在が不可欠

↓

ワークショップを通して、将来像及び将来像実現に向けた現状と課題を「共有・共感」、仲間を発掘

○「ソエダみらい会議（仮称）」を開催してみて

▶ **情報発信のあり方、難しさを実感**

- 都度、ニュースレターを発行し、町ホームページに掲載。またＳＮＳの活用や行政区・組回覧、商店へのチラシ掲示などにより「ソエダみらい会議（仮称）」の取組について周知。
- また、中学生や高校生など、若い人にも積極的に参加してほしい！との思いから、通学時間帯の駅前などでのチラシ配布なども実施。

↓

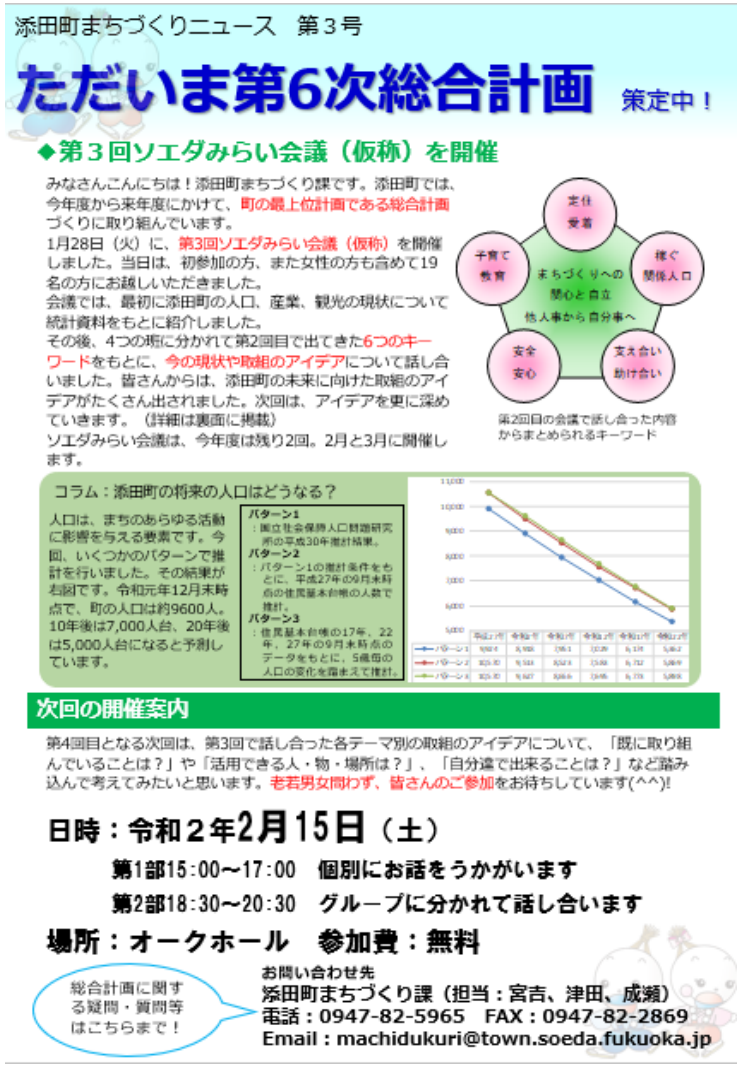
- 回が進むにつれ、認知度が高まることを想定していたが、知らない人も多い。
- また、知っていても自分には関係ない（まちづくりは役場の仕事）と思っている人が一定数いる。

↓

発信者：受け手の立場にたって情報発信することが大切

×

受け手：興味・関心を持ち、町の情報にアンテナをはることが大切



添田町まちづくりニュース　第３号

ただいま第6次総合計画 策定中！

◆第３回ソエダみらい会議（仮称）を開催

みなさんこんにちは！添田町まちづくり課です。添田町では、今年度から来年度にかけて、町の最上位計画である総合計画づくりに取り組んでいます。
1月28日（火）に、第3回ソエダみらい会議（仮称）を開催しました。当日は、初参加の方、また女性の方も含めて19名の方にお越しいただきました。
会議では、最初に添田町の人口、産業、観光の現状について統計資料をもとに紹介しました。
その後、4つの班に分かれて第2回目で出てきた6つのキーワードをもとに、今の現状や取組のアイデアについて話し合いました。皆さんからは、添田町の未来に向けた取組のアイデアがたくさん出されました。次回は、アイデアを更に深めていきます。（詳細は裏面に掲載）
ソエダみらい会議は、今年度は残り2回。2月と3月に開催します。

第2回目の会議で話し合った内容からまとめられるキーワード

コラム：添田町の将来の人口はどうなる？

人口は、まちのあらゆる活動に影響を与える要素です。今回、いくつかのパターンで推計を行いました。その結果が右図です。令和元年12月末時点で、町の人口は約9600人。10年後は7,000人台、20年後は5,000人台になると予測しています。

パターン1：国立社会保障人口問題研究所の平成30年推計結果。
パターン2：パターン1の推計条件をもとに、平成27年の9月末時点の住民基本台帳の人数で推計。
パターン3：住民基本台帳の17年、22年、27年の9月末時点のデータをもとに、5歳毎の人口の変化を踏まえて推計。

次回の開催案内

第4回目となる次回は、第3回で話し合った各テーマ別の取組のアイデアについて、「既に取り組んでいることは？」や「活用できる人・物・場所は？」、「自分達で出来ることは？」など踏み込んで考えてみたいと思います。老若男女問わず、皆さんのご参加をお待ちしています(^^)!

日時：令和２年2月15日（土）
第1部15:00～17:00　個別にお話をうかがいます
第2部18:30～20:30　グループに分かれて話し合います
場所：オークホール　参加費：無料

総合計画に関する疑問・質問等はこちらまで！

お問い合わせ先
添田町まちづくり課（担当：宮吉、津田、成瀬）
電話：0947-82-5965　FAX：0947-82-2869
Email：machidukuri@town.soeda.fukuoka.jp

○「ソエダみらい会議（仮称）」を開催してみて

▶ **「協働」の前に、まずは「共有」「共感」と「対話」**

- 人を動かすためには、「情報」「思い」を共有することが重要（取組を通じて何を目指しているのか、なぜ協働なのか等）。情報を発信する人が「何を基に、何をして、どうなりたいのか」を伝えることが第一歩。
- 始めはうまくいかなくても、根気強く、継続することで共有した「思い」に共感してくれる人が集まり、その人たちが周りを巻き込んで流れが大きくなる。
- 自分の思いをぶつけるだけでなく、相手の話に耳を傾け、批判や議論ではなく「対話」を重視する。

お願い

ソエダみらい会議5か条

一. 相手の意見をしっかり聞く

一. 否定をしない、頷きを持って受け止める

一. 長く話さない、1人1分を心掛ける

一. みんなで協力して、物事を進める

一. 付箋はたくさんある。平仮名・カタカナOK
メモ帳がわりに、どんどん使う

○「ソエダみらい会議（仮称）」を開催してみて

▶ 住民主体のまちづくりに向けた第一歩

- 「ソエダみらい会議（仮称）」で出された意見をもとに、参加者自らで企画書を作成、実行委員会を立ち上げ、年度内の事業実施までこぎつけた。
- 企画書の検討、実行委員会での協議にあたっては、委託業者及び職員が参加し、支援を行った。

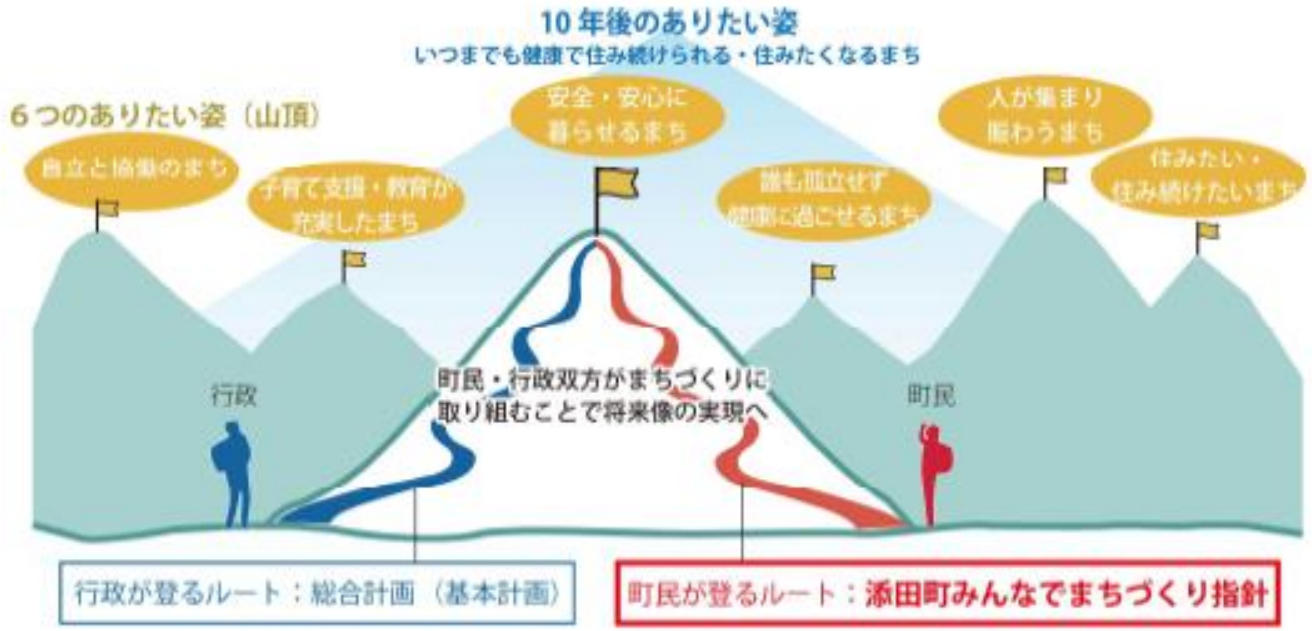
企画名	問題意識	企画内容
まちづくり勉強会	**分野：支え合い・助け合い** 誰もが孤立せず、健康に過ごせるまちを実現するためには、男女問わず気軽に集まり、交流できる場ができないだろうか。 町が色々な取り組みをされているが知らないことも多いので、それを知ることをキッカケにしてはどうか。	・実行委員が所属する４行政区（添田東、添田中、伊原、桝田）で現在抱えている課題や、自分たちが関心のある事をテーマに、添田町との座談会を実施する。 ・座談会終了後は、参加者のメンバーで交流会（感想会）を実施し、各地域が取り組んでいることや、地域の課題について共有する。
空き家巡りツアー	**分野：定住・愛着/稼ぐ・関係人口** 町では空き家バンク制度を設け、その活用を促進しているが登録件数は少ない。一方で、空き家を求める人は多く、物件を待っている方がいる。空き家バンク制度を知ってもらうとともに、空き家活用を考える機会を作ってはどうか。	・現在空き家バンク制度に登録されている物件の中から、所有者様の理解を得た物件について、実際に見て回るツアーを実施する。 ・ツアーは、町民対象とし、4～5軒程度の物件を巡る。町内各地の様々なタイプの物件を見てもらうことで、空き家バンクへの登録促進と、利活用に向けて検討してもらう機会とする。
地域活動団体交流会	**分野：関心・自立** まち、地域づくり活動に関して、自分たちでできることから主体的に課題を解決または改善していく町民の活動を活性化したい。 まずは、公共の利益に資する地域の活動団体にスポットをあて、団体間の交流を行ってはどうか。	・町内で活動している行政区、地区公民館、ボランティア団体、地縁団体、NPO等団体関係者が一堂に会し、情報交流や人的交流の機会とする。 ・4～5団体から活動発表してもらい、その後交流の場を設け、それぞれの活動の活性化と団体の拡充を図り、自立と協働のまちづくりへの機運を高める。

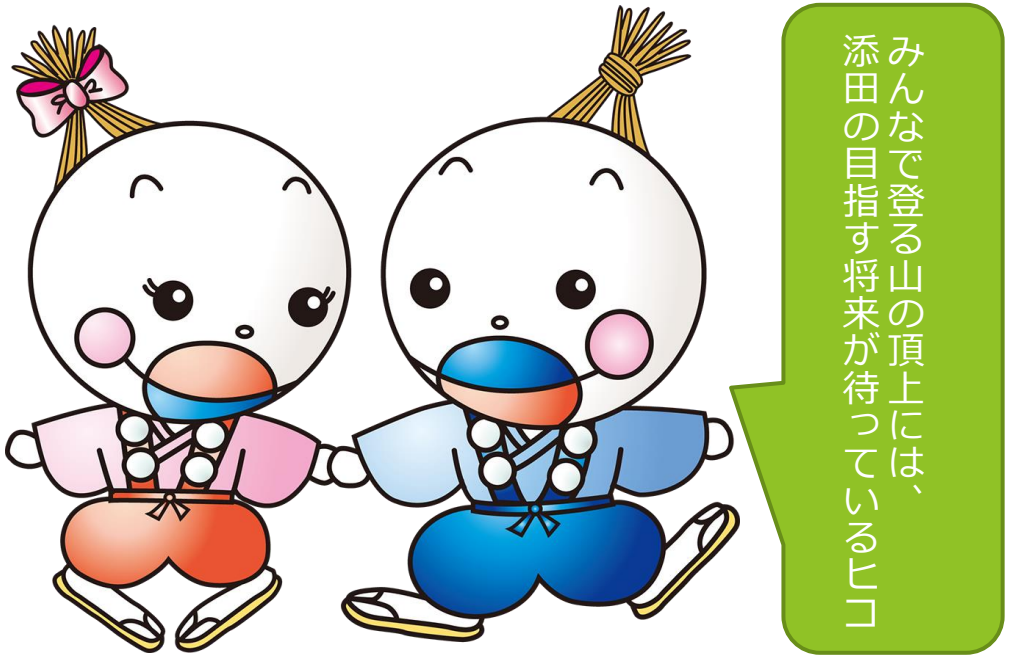
○ 今後の取組

▶ 「みんなでまちづくり」を合言葉に将来像の実現に向けて取り組む

- 将来像の実現に向けて住民等との協働を掲げる中で、行政運営の総合的かつ基本的指針となる総合計画（行政の取組）だけでは将来像の実現は困難。
- 住民等のコンセンサスを得ながら「行政」「住民等」それぞれができることを整理していく必要がある。

住民側の指針となる「みんなでまちづくり指針」を策定する

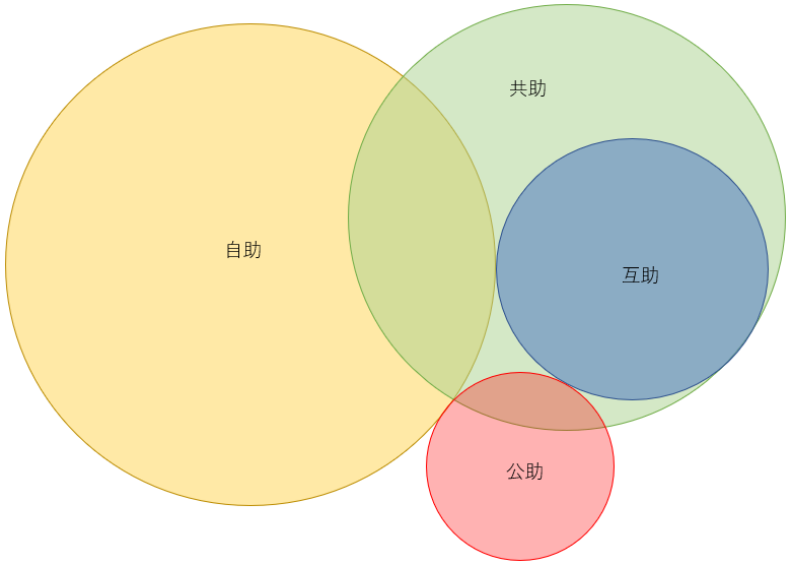




○「みんなでまちづくり」ってどういうこと？？

▶ **「自助」「互助」「公助」に加え、「共助」の枠組みを**

- 近年、「自助・共助・公助」という言葉がよく使われており、阪神淡路大震災における救助活動の割合は「70：20：10」と言われている。
- ここで言われる「共助」とは、親戚や隣近所など、身近な人たちが助け合うという点で、「互助」とも言えるのではないか。
- しかし、高齢化や核家族化の進行に伴い、「自助」で対応できるものは限界がある。また、人口減少、地域社会・地域コミュニティにおけるつながりの希薄化といった課題に直面しており、「互助」の基盤も弱まっている。
- 今後の人口減少を見据えた上で、まち・地域が元気であり続けるためには、従来の枠組みを超えて、「互助」よりも少し広い範囲での助け合い、いわゆる「**共助**」が必要不可欠。
- 例えば、従来は互助の仕組みとして、隣組・五人組と言われるような制度があったが、近年では自主防災組織の設立、「避難行動要支援者名簿」の作成、地域での情報共有が進められていることも、このような背景が一因ではないか。



○ 今年度はどんなことをするの？

▶ **「みんなでまちづくり推進事業」におけるみんなでまちづくり指針の策定**

- 指針の策定はゴールではなく、スタートであり、策定後は住民一人ひとりが「自分事」として指針に基づいてまちづくりに取り組むことが目的。
- 目的を達成するためには、企業・団体、住民など、まちづくりに関わる人たちが指針策定段階から関わることが重要。

- そのため、指針策定にあたって住民等による検討会議を設置。
- 検討会議メンバーは町内の関係団体の代表や公募など幅広い分野・年代により構成し、企業・団体、住民の立場から意見を出し、指針案の検討を進める。
- また、検討会議メンバー以外にも、幅広く意見を集約し、住民一人ひとりが「自分事」として捉えてもらうことが重要となることから、指針策定に係るワークショップも開催。

○ 今年度はどんなことをするの？

▶ 住民主体の取組も活性化

- 「ソエダみらい会議（仮称）」から生まれた取組である「空き家ツアー実行委員会」は、引き続き実行委員を中心に検討を重ねている。
- 昨年度は計画を立て（Plan）、実行する（Do）、良かった点・悪かった点を話し合う（Check）までだったが、今年度は昨年度の取組を踏まえ、昨年度の評価を基に再検討（Check）、新たに空き家を活用したイベントの開催を企画（Plan）しており、今年度開催する（Action）予定。
- 「空き家ツアー実行委員会」の会議には「ソエダみらい会議（仮称）」事務局職員も参加しており、行政としても「やって終わり」ではなく、引き続き住民主体のプロジェクト実施の支援、新たなプロジェクトの立ち上げを支援していくとともに、協働のプラットホームの構築に向け取り組む。

ご清聴ありがとうございました。

少子高齢化・人口減少と過疎化の進む添田町ですが、様々な取組を進め地域活性化のために頑張っています。一方で、情報化の急速な進展やコロナ禍における新しい生活様式の実践など、社会情勢は急激に変化し続けており、市町村の枠組みを超えた連携・協力も不可欠となってきています。

今後、特に近隣・県内自治体の皆様にはご相談・お願いの連絡を差し上げることもあるかと思いますが、情報の提供・共有だけでなく、時には協力し、切磋琢磨できるような関係を築いていきたいと考えていますので、添田町の職員から連絡があった場合は広く優しい心でご対応いただきますようお願いします。

最後に、どの自治体でも同様の課題・問題を抱えていらっしゃるのではないかと思いますが、少しでも添田町の取組が参考となり、お役に立てれば幸いです。